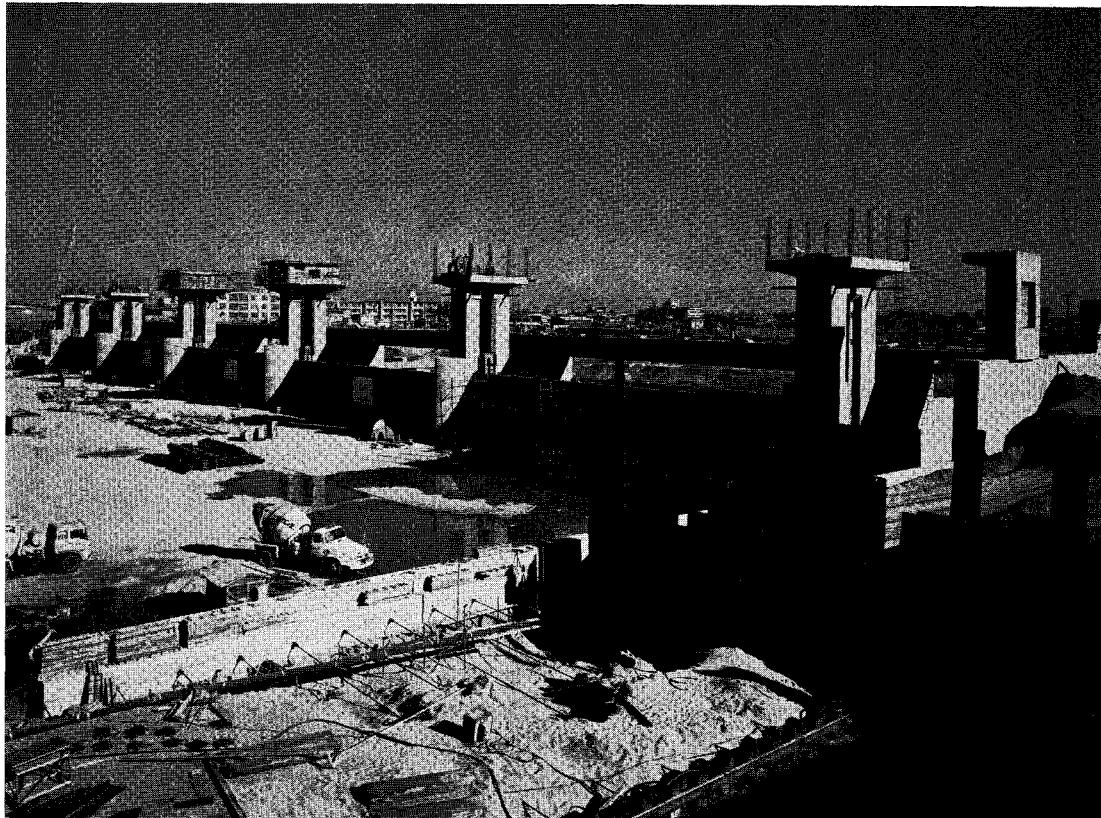
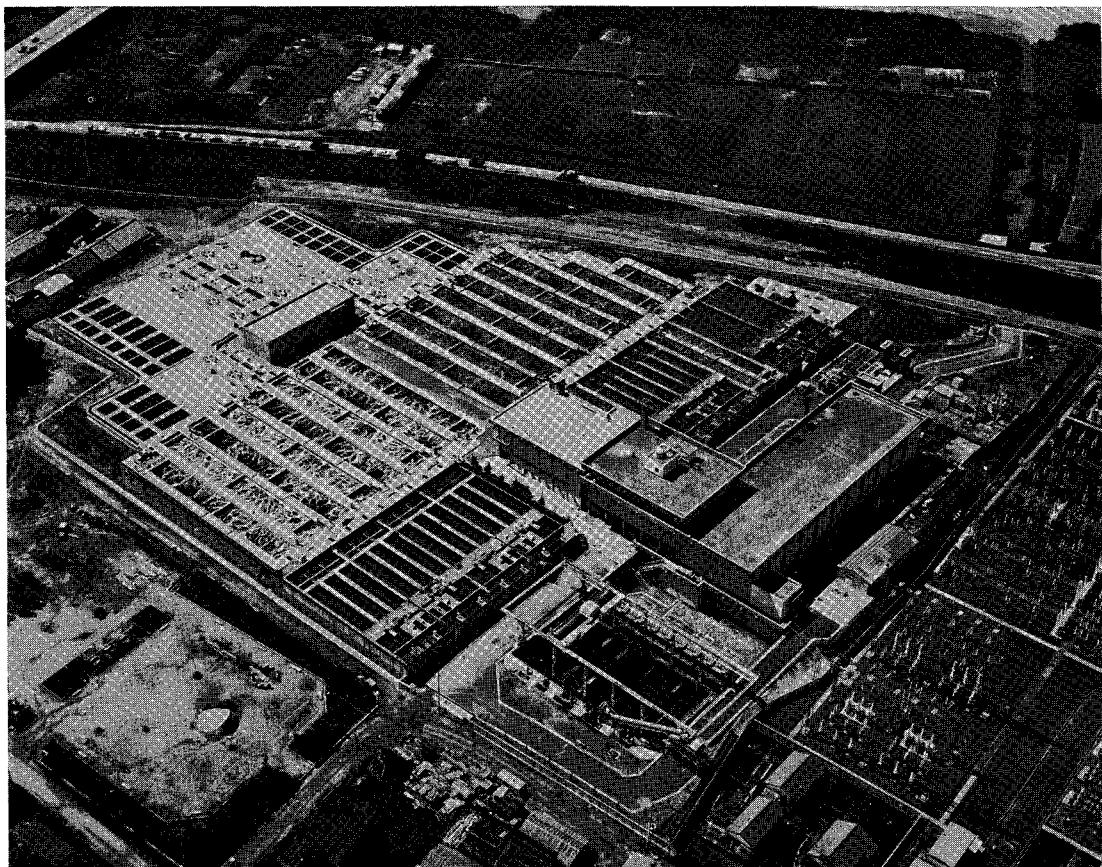


## —— 関屋分水路事業の近況



昭和 46 年度通水を目標とする関屋分水路事業は、昭和 40 年度以降総事業費約 160 億円をもって、鋭意その作業がすすめられている。本事業の主目的は、旧信濃川の新潟市街地区における計画高水流量 ( $3\ 200\ m^3/sec$ ) が、同地区の河道の洪水疎通能力 (約  $1\ 100\ m^3/sec$ ) を大きく上回るため、洪水が市街地に入る前に日本海へ放流しようとするものであり、その完成が急がれるものである。写真は、本事業のうちの最大かつ重要構造物である関屋分水路可動堰の工事近況で、総幅 218 m、純支間 41.2 m の鋼製ローラーゲート 5 門等を誇る雄姿が掘削された分水路の中にたちあがってきたところである。

## 名古屋市岩塚下水処理場完成



昭和 35 年度に着工、39 年 4 月の簡易処理を開始して以来引き続き拡張工事を進めてきた名古屋市岩塚下水処理場が、20 万 m<sup>3</sup> / 日の下水処理場として本年 10 月 1 日全工事を完了した。

本処理場の処理区域面積は 2 287 ha、処理人口 386 000 人、活性汚泥法による処理方法等、中京の誇る下水処理施設として市内河川の汚染防止、雨水排水施設による浸水防止などに多大な効果が期待されるところである。詳細については、本文ニュース欄参照のこと。

## 内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理して下さい。

### 福山臨海製鉄所の土地造成と地盤改良／北川典生

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 2~8, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

昭和 37 年以来、瀬戸内海、福山市地先の臨海地帯にあらたに敷地造成を行なって新製鉄所が建設されてきた。その地盤が沖積粘土層上に埋め立てられたことから、埋立ての段階から地盤改良、基礎工事にいたるまで、各種の困難な問題が発生した。本文は、これらの問題に対して、とくにシルトとの関連において、施工上いかに対処し、解決するようにしたかの過程と、その概要について、土地造成および地盤改良を中心に報告している。

### アーチ形水門の設計／那智俊雄

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 9~16, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

大阪市内河川の安治川、木津川、尻無川の中流部にアーチ形の防潮水門が完成した。アーチ形水門は、わが国では初めてのものであり、その設計、施工には多くの問題点があった。この報告では、設計上の問題にしづれり、本水門の支配荷重である波、地震、風に対するゲートの動的安定性を検討し、さらに設計計算上の問題点として、ボックス形状であるゲートの応力計算の考え方、アーチ、ゲートの断面力の傾向、ゲート端部の応力集中の問題などを検討した結果を述べている。

### 近鉄難波線複線機械化シールド工事報告／齋 哲司・中井政一・市川勝久

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 18~25, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

近鉄難波乗入れ地下鉄建設における複線機械化シールド工事に関し、さきに本誌 54 卷 4 号に工事計画・シールド・覆工などの詳細を報告したあとを受けて、おもに施工実績および、その問題点について述べたものである。施工実績は掘進日数 229 日、平均日進 6.5 m (うち圧気掘進平均 7.7 m/日)、最高日進 15 m、日進 10 m 以上は 52 日であり、とくに地下水の多い日本橋駅付近の無圧気掘進では、わが国最初のディープウェルポイント工法を用い成功をおさめた。

### 模型実験によるトンネル騒音防止工法の選定／佐藤正大・真藤和孝

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 27~33, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

トンネル内を走る自動車の騒音が付近住民に及ぼす公害防止のため、トンネル現場において、数種類の周波数の音による実験を行ない、音に関するこのトンネルの傾向を把握した。これに基づいて使用材料といくつかの防音工法を想定し、トンネルの模型を作成して模型実験を行ない、経済性と防音効果のバランスのとれた工法を選定し、これによって防音工事を施工し所期の目的を達成できた。本文はこの経過を実験のデータの図表等を主体として述べたものである。

### 鉄塔支持型煙突設計の自動化／谷 直重・森脇博生・荒木正雄

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 34~41, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

設計の省力化、設計期間の短縮、設計の質の向上等の目的をもって最近各方面で取り組まれている電算機を用いる自動設計に関し、特に生産設計の自動化を主題として述べたのが本報告である。ここでは、鋼構造メーカーが実施した鉄塔支持型煙突を例により、開発から実施、また今後に残された課題について述べている。

### 土木材料としての石炭灰等残滓材料の有効利用／戸田五郎・長谷川幸雄

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 42~47, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

われわれの身近かに存在する各種工場残滓（石炭灰、水滓スラグ、カーバイト残滓等）を土木建築の分野における材料として有効に利用することをねらいとして調査研究を行なった結果の報告である。一般的な土木技術面における利用の開発を主眼として、まずこれら残滓材料の現況とその有する特質について概説し、これらの材料を組み合せることによってコンクリート二次製品のほか、土質改良等の分野で広く経済的に価値あるものとして再生できることが確認された。

11月下旬  
発行予定

# 鋼鉄道橋設計標準解説

土木学会編 / A5・380頁・上製 2000円 会員特価 1800円(税込110円)

## 内 容 一 覧

### 1. 国鉄の規程体系 2. 建造物設計基準規程 3. 建造物設計標準（鋼鉄道橋） 解説および付属資料

第1章 総 則	1.1 適用範囲	1.2 建築限界等												
第2章 荷 重	2.1 荷重の種類	2.2 死荷重	2.3 列車荷重	2.4 衝撃	2.5 遠心荷重	2.6 車両横荷重	2.7 制動荷重および始動荷重	2.8 風荷重	2.9 設計震度	2.10 温度変化	2.11 ロングレール縦荷重	2.12 衝突荷重	2.13 橋側歩道の荷重	2.14 架設荷重、橋梁への添加物、支点変位の影響、雪荷重等
第3章 材 料	3.1 材料一般	3.2 構造用鋼材	3.3 接合用材料	3.4 支承用材料										
第4章 許容応力度	4.1 許容応力度	4.2 構造用鋼材および溶着部の許容応力度	4.3 リベット、ボルトおよびピン	4.4 支 承										
第5章 設計一般	5.1 鋼材の弾性定数	5.2 橋桁の幅	5.3 橋桁のたわみ	5.4 橋桁の転倒に対する検算	5.5 桁の上揚力に対する検算	5.6 部材の細長比	5.7 二 次 応 力	5.8 部材断面の構成	5.9 鋼材の厚さ	5.10 最小山形鋼	5.11 そ り			
第6章 有効断面積	6.1 リベット孔およびボルト孔	6.2 純断面積の計算	6.3 引張山形鋼の有効断面積	6.4 圧縮部材の有効断面積	6.5 たわみ、不静定力等を計算す									

る場合の有効断面積	11.4 最大中心間隔
第7章 部材および連結の計算	11.5 最小縁端距離
7.1 部材の曲げ応力度	11.6 最大縁端距離
7.2 軸方向および曲げモーメントをうける部材の検算	11.7 山形鋼に用いるリベットまたは高力ボルト
7.3 部材のせん断応力度	11.8 締付長の大きさリベット
7.4 曲げモーメントとせん断力との合成応力	11.9 間接添接の場合のリベット数
7.5 リベット、ボルトおよびピンの応力計算	11.10 フィラーがある場合のリベット
7.6 引張力、圧縮力またはせん断力をうける溶接継手	11.11 リベットまたはボルトの最小数
7.7 T形継手のすみ肉溶接が曲げモーメントとせん断力とをうける場合の検算	11.12 引張をうけるリベットおよびボルト
7.8 部材の連結	11.13 ピン連結
7.9 プレートガーダーの腹板の添接	11.14 ピン
第8章 板要素の幅厚比と補剛材	11.15 ピン孔を有する部材
8.1 部材の軸方向に圧縮力を受ける板要素	第12章 綾構およびダイヤフラム
8.2 部材の軸方向の圧縮力と曲げモーメントとを受ける板要素	12.1 綾構部材
8.3 曲げモーメントを受ける部材の腹板	12.2 横構
8.4 せん断力と曲げモーメントを受ける部材の腹板	12.3 プレーキトラス
第9章 床組	12.4 中間対傾材
9.1 縦桁	12.5 端対傾材
9.2 連続縦桁の曲げモーメント	12.6 ポータル
9.3 橫桁	第13章 プレートガーダー
9.4 縦桁と横桁との連結	13.1 フランジ断面
9.5 橫桁と主桁との連結	13.2 フランジプレート端の前面すみ肉溶接
9.6 鋼床板の構造	13.3 フランジプレートと腹板とを連結する溶接
9.7 鋼床板の縦リブの設計	13.4 端補剛材
9.8 鋼床板の横桁の設計	13.5 下路プレートガーダーの主桁上フランジの固定
第10章 溶接継手	13.6 鋼床板としての応力と上フランジとしての応力との合成
10.1 溶接の種類	第14章 トラス
10.2 溶接継手のど厚	14.1 弦材等の構成
10.3 溶接の有効長	14.2 孔あきプレートを有する部材
10.4 グループ溶接を用いた突合せ継手	14.3 主構のガセットの厚さ
10.5 グループ溶接の開先形状	14.4 ポニートラス
10.6 すみ肉溶接のサイズ	第15章 支 承
10.7 すみ肉溶接の最小長さ	15.1 支承一般
10.8 重ね継手	15.2 可動支承の種類
10.9 T継手に用いるすみ肉溶接	15.3 可動支承の可動量
10.10 溶接とリベットまたは普通ボルトとの併用	15.4 可動支承の摩擦係数
第11章 リベット継手、ボルト継手およびピン連結	15.5 支承部分の寸法
11.1 リベットの形状および寸法	15.6 アンカーボルト
11.2 ボルトの形状および寸法	15.7 支承の防じん装置
11.3 最小中心間隔	第16章 付属設備
	16.1 橋側歩道
	16.2 張板
	16.3 排水
	付属資料 1~21
	4. 鋼鉄道橋関連規程、規格目録

---

## 現在の廃棄物埋立地盤の性状／前田慶之助・斎藤征剛

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 48~52, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

埋立投棄された廃棄物地盤を道路敷地あるいは団地敷地など土地利用できれば、わが国の国土事情より考えてきわめて有効であるが、そのためにはまず、廃棄物地盤の性状を把握せねばならない。本文はこの目的のため、実際の廃棄物地盤で行なった調査結果を種々の面から解析し、将来、産業廃棄物を含めた固形廃棄物地盤の利用計画の基礎資料を得ようとするものである。

---

## 山地河川における河床材料のサンプリング方法と粒度分布／河村三郎・小沢功一

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 53~58, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

山地河川における河床材料、とくに、その表層部分のサンプリング方法と粒度分布の計算法を記述している。また、河床材料の粒度分布を正規分布と仮定してサンプリングの必要粒子数を考察するとともに、山地河川における相当粗度の推定法を考察している。

---

## 排砂管の摩耗量／小川 元

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 59~62, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

排砂管の摩耗量を定量的に表わす実験式を求めるもので、まず摩耗量を表わす方法を考察し、単位として単位管長あたり単位輸送土量あたりの摩耗重量をとることとして、これに影響をおよぼす水理学的基本要素として管径をとって、管径と上記摩耗量との関係を論じた。そしてその結果を過去の実験実測例に適用して、実地への使用を目的とした実験式を導いたものである。

---

## 企画委員会の最近の動き／仁杉 巍

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 63~68, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

土木学会に企画委員会が設置されてから 2 年経過したが、その間土木学会誌第 54 卷 7 号に第 1 回報告として「企画委員会の活動をもっと強力に」を掲載した。本文はその後の経過について委員長が執筆したもので、報告の経緯のなかで、土木界の取上げるべき多くのテーマと、それぞれの問題点を指摘している。

---

## 人間環境に関する 1972 年国連会議のこと／加藤三郎

土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 69~71, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

人間環境に関する諸問題は今後ともきわめて重要な主題であり、土木学会としても積極的に取り組むべき課題のひとつであるが、本文はそれに関連して 1972 年に開かれる標記の国連会議の内容について簡単に紹介した。国際時代を迎えた環境問題、人間環境に関する国連会議、土木界の関連、の節に分けて述べている。

---

## 座談会・関東大地震と都市防災／耐震工学委員会・土木学会誌編集委員会

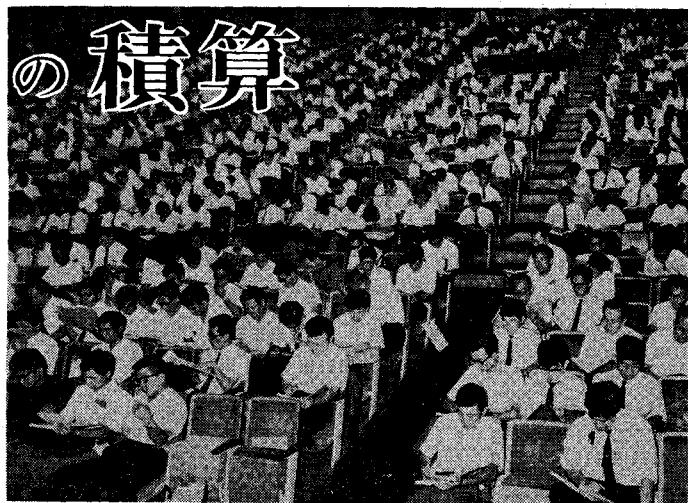
土木学会誌・第 55 卷 第 12 号, pp. 72~79, 昭和 45 年 12 月 (Dec. 1970)

本文は、昭和 45 年 9 月 8 日、耐震工学委員会と土木学会誌編集委員会の共催で開かれた座談会の要約である。大正 12 年 9 月 1 日正午に起った関東大地震の経験をふまえて、都市防災の今後のあり方について多くの貴重な教訓が語られている。出席者は、青木楠男、金子源一郎、佐藤俊一、沢井広之、萩原俊一、林 聰、沼田政矩、ほかで司会は岡本舜三があたっている。

---

# 土木工事の積算

去る8月20、21の両日、東京・杉並公会堂において積算をテーマに開催された土木学会45年度夏期講習会風景。参加者は800名を越え、職域も学校、建設業、コンサルタント、官公庁、公社公団、地方庁など、あらゆる方面にわたっている。



■B5判・上製クロース装・ビニールカバー付

定価 1800円 会員特価 1600円(税100円) ■

新刊発売中

## 明日の 国土を 築く力

高校土木  
教育白書

A5・308  
700円(税80)

土木学会高校土木  
教育研究委員会編  
好評発売中



〒160・東京都新宿区  
四谷1丁目

土木学会

### ●積算概論・若木三夫

1. まえがき
2. 積算の問題点
3. 施工計画
4. 積算方法の分類
5. 積算基準の適用と工事費の構成
6. 工事原価の内容
7. 設計変更
8. 積算の合理化
9. あとがき

### ●工事実績と積算・山崎八郎

1. まえがき
2. 主要工種の実績
3. 工事実績結果から積算を行なう場合の問題点とその考え方
4. あとがき

### ●材料および労務単価・宮内章

1. 土木積算と材料、労務単価
2. 材料単価
3. 労務単価

### ●機械経費と稼働率・川崎迪一

1. はじめに
2. 機械経費の分類と構成
3. 稼働率などの用語と定義
4. 機械損料の積算
5. 運転経費の積算
6. 機械経費の積算

### ●仮設計画と仮設費・宮原春樹

1. はじめに
2. 仮設の問題点
3. 仮設計画の考え方
4. 仮設費の考え方
5. 仮設計画のポイント
6. 仮設の計画・積算の合理化とその将来

### ●間接経費の考え方・竹内道郎

1. はじめに
2. 間接経費の区分
3. 現場経費の構成
4. 現場経費の費目と解説
5. 一般管理費
6. 間接経費のまとめ
7. あとがき

### ●安全対策費のみかた・清水正男

1. はしがき
2. 営業線近接工事の安全対策
3. 積算のみかた
4. 工事に伴う事故について
5. 積算上の問題点
6. むすび

### ●積算のシステム化・小寺隆夫

1. システムアナリシス
2. インプット
3. アウトプット
4. ファイル
5. 要素施工
6. プログラム
7. 実施上の問題点

### ●アメリカ合衆国における積算・横山義雄

1. はじめに
2. アメリカ合衆国の請負制度
3. 積算に対する態度
4. 積算の方法
5. 積算の教育および研究
6. おわりに

# 会 告

社団法人 土木学会

行事案内	月 日	行 事 名	場 所	備 考
本 部	1月29日(金)	第5回土木計画学シンポジウム	土木学会	12号会告5 参照
	1月30日(土) ～31日(日)	} 第7回衛生工学研究討論会	福岡市	12号会告5 "
	2月12日(金) ～13日(土)	} 第15回水理講演会	東京	12号会告6 "
東北支部	2月23日(火)	技術研究発表会	仙台市	12号会告9 "
関東支部	2月5日(金)	講演と見学会	成田市	12号会告9 "
中部支部	2月13日(土)	昭和45年度研究発表会	名古屋市	12号会告10 "
関西支部	1月14日(木)	講 演 会	和歌山市	12号会告12 "
	1月26日(火)	懇 話 会	大 阪 市	12号会告11 "
	1月27日(水)	講 習 会	同	12号会告12 "
	5月9日(日)	年次学術講演会	京 都 市	12号会告13 "
西部支部	2月21日(日)	支部総会・研究発表会	福岡市	12号会告14 "
そ の 他	1月23日(土)	流体輸送に関するシンポジウム	大 阪 市	12号会告7 "
	2月2日(火) ～6日(土)	} 橋梁の動的応答研修会	鈴鹿市	12号会告8 "
	2月13日(土)	河川災害に関するシンポジウム	東京	12号会告6 "
お 知 ら せ	■昭和45年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集			12号会告2 "
	■アルミナセメントに関するシンポジウム			12号会告7 "
	■土木学会出版物のマイクロフィッシュフィルムによる複写と販売について			12号会告14 "
	■日本学術会議会員選挙に関する有権者名簿登録について			12号会告15 "
	■第8回理工学における同位元素研究発表会論文募集			11号会告9 "

## 論文報告集のページ数の厳守に伴う投稿規則の一部改正について

先に会告(学会誌55巻6号)でお知らせ致しました論文報告集投稿要項の「4.論文報告の長さ」にある規定ページ(12ページ)を超過する論文が最近非常に目立って参りました。論文報告集は会員全体のものであり、より多くの論文を掲載するには、おのずから1編あたりのページ数が限定されて参ります。

論文集編集委員会ではあらゆる点から検討を行なった結果1編あたりのページ数を12ページに決定したものであり、やむを得ない場合のみ超過を認めて参りましたが、現状では超過ページの判断の基準が困難になって来ましたので12月1日以降受付けの論文から下記のように扱うことになりますのでご了承下さい。なお欧文で投稿の論文も同じ条件です。ただし、欧文で投稿された論文は従来の9ボーダー段組を二段組に変更します。

### 記

4. 論文報告の長さ: 論文報告1編の長さは原則として図表を含み刷上がり12ページ以内とします。ただし、4ページまでの超過は認めますが、超過分は実費(刷上り1ページあたり6000円)負担していただきます。それを超過した論文は受付けません。
5. 和文要旨について: 和文要旨は学会誌の論文紹介欄に掲載しますので論文の要旨が理解できるように800字(±10%まで認めます)にまとめて4部提出して下さい。

## 昭和45年度土木学会賞候補ならびに吉田研究奨励金候補の募集

本年度土木学会賞候補の募集ならびに吉田研究奨励金候補の募集をいたします。表彰規程および下記募集要項をご参照のうえ、ふるって推薦または応募されますようお願いいたします。ただし、土木学会賞のうちの功績賞については公募いたしません。

### ◎土木学会賞候補募集要項

項目 種別	技 術 賞	論 文 賞	吉 田 賞	田 中 賞
候補対象	<p>土木事業の計画、設計、施工等に関する、土木技術の進展に顕著な貢献をなした画期的な業績を対象とした次の各項について選考する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 土木事業の計画、設計または施工等に関する業績</li> <li>2. 土木事業の計画、設計、施工に関する総合的な業績</li> </ol>	<p>(論文賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学术、技術の進歩、発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたもの。</p> <p>(論文奨励賞) 土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学术、技術の進歩、発展に寄与し、独創性と将来性に富むもので受賞者が原則として受賞時(46年5月末日)に満36才未満であるもの。</p>	<p>コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計、施工、考案などの報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。</p>	<p>(論文) 橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有する物を対象とし、つぎの各グループについて選考する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 長大橋梁</li> <li>(2) 中小橋梁</li> <li>(3) その付特殊橋梁および構梁に関連するもの</li> </ol>
受賞候補者	個人または団体	本会会員に限る。 過去の土木賞受賞者は既受賞者として重ねて同一の賞の候補者となることはできない。共著者(共同研究者)の中に非会員、既受賞者、その他受賞候補者になることはできないものか含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはずして推薦する場合は、必ず受賞候補者の当該論文(研究)に対する貢献度を具体的に明記すること。	個人または研究グループ。 ただし、外国国籍のものは、本会会員であって、その候補対象を土木学会誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に発表した者に限る。また、過去の吉田賞受賞者は重ねて吉田賞候補となることができない。共著者(共同研究者)の中に既受賞者その他の受賞候補となることはできないものが含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはずして推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。	<p>(論文) 個人またはその複数。ただし外国籍を有するものの論文について日本において最初に発表されたものに限る。また、過去の田中賞受賞者は重ねて田中賞候補となることができない。共著者(共同研究者)の中に既受賞者その他の受賞候補となることはできないものが含まれていることはさしつかえないが、受賞候補者に加えることはできない。なお、共著者(共同研究者)を受賞候補者からはずして推薦する場合は、必ず受賞候補者の貢献度を具体的に明記すること。</p> <p>(作品) 作品自身を対象とするもので受賞候補者はない。</p>
候補の範囲	昭和44年1月1日から昭和45年12月31日までの間にできた業績であって日本国内において実施されたものに限る。	昭和44年1月1日から、昭和45年12月31日までの間に発表されたもので、土木学会誌、論文報告集、その他土木学会の刊行物に登載されたもの、他学・協会、大学、官公庁、会社など刊行物に登載されたものを含む。 なお、同一の問題につき当該期間において論文が発表されている場合には前項に該当する論文にその過去における発表論文を加えて総合題目として候補の対象とすることもできる。		<p>(論文) 論文賞・吉田賞に同じ</p> <p>(作品) 昭和44年1月1日から昭和45年12月31日までの間に完成した構造物で日本人により計画、設計あるいは施工されたものに限る。 なお、完成の時期については、原則的には普通の構造物等では、供用開始の時、その他一連の工事の一部としての構築等の構造物では、そのものの自身の完成したと見做される時とする。</p>
推薦(応募)の方法	推薦者は会員、支部、土木事業に関連する学・協会、法人とする。 推薦者は別に定める推薦書、候補業績の要旨各1部を提出する。 なお、当該業績に関する参考資料を添付することを妨げない。	推薦者は会員、支部その他一般とするが、会員自からの応募であってもよい。 推薦者は別に定める様式による推薦書1部を提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に発表されている場合は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料6部と別に定める様式による候補論文要旨1部を提出しなければならない。	推薦者は会員、支部、その他一般とする。 推薦書は別に定める様式による推薦書1部を提出する。土木学会誌、論文報告集以外に発表された候補論文は推薦書に添えて本文および審査に必要な資料30部を提出しなければならない。	<p>(論文) 推薦者は会員、支部、その他一般とする。</p> <p>(作品) 推薦者は別に定める様式による推薦書を1部提出する。候補論文が土木学会誌、論文報告集以外に発表されている場合は、推薦書に添えて本文および審査に必要な資料25部を提出しなければならない。</p> <p>(作品) 推薦者は会員、支部、その他一般と受賞候補に関与した当時事務であってもよい。</p> <p>推薦者は別に定める推薦調書1部を提出する(写真は25枚添付すること)。</p>
(推薦および関係用紙は土木学会本部または各支部に準備しておりますから必ずその用紙を使用して下さい)				
審査	表彰委員会において行なう。ただし、審査の途上において推薦者またはその代理人に出席を求めて説明をうけることがある。	論文賞選考委員会において行なう。 なお、必要あるときはさらに資料30部の追加提出を求めることがある。	吉田賞選考委員会において行なう。	田中賞選考委員会において行なう。 なお、必要あるときはさらに関係資料の提出を求めることがある。
表彰	第57回通常総会において行ない、賞状、賞牌を贈る。	第57回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第57回通常総会において行ない、賞状、賞牌、賞金を贈る。	第57回通常総会において表彰する。
締切日	昭和46年1月20日			
提出先	東京都新宿区四谷1丁目 土木学会表彰委員会	土木学会論文賞選考委員会	土木学会吉田賞選考委員会	土木学会田中賞選考委員会

## 土木学会表彰規程

### (総則)

第1条 土木学会規則第34条による表彰はこの規程による。

### (賞の種類)

第2条 表彰は次の土木学会賞(総称)を授与して行なう。

1. 功績賞
2. 技術賞
3. 論文賞
4. 吉田賞
5. 田中賞

### (功績賞)

第3条 功績賞は土木学会の会員であって、土木工学の進歩、土木事業の発達、土木学会の運営に顕著な貢献をなしたと認められるものに授与する。

### (技術賞)

第4条 技術賞は土木事業の計画、設計、施工等に関し、土木技術の進展に顕著な貢献をなしたと認められた画期的な業績に授与する。

### (論文賞)

第5条 論文賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術の進歩発展に独創的な業績をあげ、顕著な貢献をなしたと認められたものに授与する。

(2) 論文奨励賞は本会会員であって、土木学会誌、論文報告集、その他の刊行物に研究、計画、設計、施工、考案などに関する論文を発表し、これが土木工学における学術、技術に関する進歩発展に寄与し、独創性と将来性に富むものと認められ、受賞者の年令が原則として受賞時に満36才未満であるものに授与する。

### (吉田賞)

第6条 吉田賞はコンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する優秀な研究、工事等を行なったと認められたものに授与し、その業績が土木学会の刊行物、コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する学・協会の刊行物、その他これに類似の刊行物に研究論文、設計・施工・考案等の報告またはそれらの要旨が登載されたものの中から選ばれる。

### (田中賞)

第7条 田中賞は次の論文ならびに作品に授与する。

#### (1) 論文

橋梁およびその他の構造物に関する優秀な研究結果を対象とし、公刊されたものの中から選ばれる。

#### (2) 作品

橋梁およびそれに関連する構造物で、計画、設計、施工、美観などの面においてすぐれた特色を有すると認められる物を対象とし、長大橋梁、中小橋梁、その他特殊橋梁および橋梁に関連あるもののグループ別に選ばれる。

### (委員会)

第8条 土木学会賞を選考するため次の委員会をおく。

1. 表彰委員会
2. 論文賞選考委員会
3. 吉田賞選考委員会
4. 田中賞選考委員会

(2) 表彰委員会は功績賞および技術賞の受賞候補の選考をなし、論文賞、吉田賞および田中賞選考委員会の具申を受けて、必要に応じて各賞間の調整を行ない、土木学会賞受賞候補を決定する。

(3) 論文賞選考委員会は論文賞候補の選考を行なう。

(4) 吉田賞選考委員会は吉田賞候補の選考を行なう。

(5) 田中賞選考委員会は田中賞候補の選考を行なう。

(6) 前記各委員会の構成、運営、その他については別に内規で定める。

### (賞の決定、表彰の時期・方法)

第9条 土木学会賞は理事会において決定し、表彰は原則として毎年1回通常総会において賞牌、賞状等を授与して行なう。

# 会 告

## ◎吉田研究奨励金候補者の募集

### 1. 候補対象

コンクリート、鉄筋コンクリートおよびプレストレストコンクリートに関する研究に従事するもので、特に独創性と将来性に富むと認められたもの。ただし、授与されるものが、原則として満40才以下のものに限り、かつ特別な場合を除き同一研究計画に対してすでに吉田研究奨励金を授与されたものを除く。

### 2. 募集の題目

#### (1) 要望課題

- ① 鉄筋コンクリートまたは、プレストレストコンクリート部材の極限設計に関する研究
- ② プレキャストコンクリート部材の接合に関する研究
- ③ 軽量コンクリートに関する研究
- ④ コンクリート内の微細なひびわれに関する研究

#### (2) 自由課題

### 3. 募集の方法

日本の国籍を有する個人または研究グループの応募による。

### 4. 研究成果の報告

研究成果は文書により吉田賞選考委員会に提出するほか、昭和47年10月中旬施行の第27回年次学術講演会において吉田研究奨励金を授与された研究であることを明らかにして発表しなければならない。

### 5. 応募の方法

一定様式による研究計画書1部を提出する。

(計画書の用紙は土木学会本部および各支部に準備しておりますから、必ずその用紙を使用して下さい)

### 6. 審査

吉田賞選考委員会において行なう。

### 7. 締切期日

昭和46年1月20日

### 8. 提出先

郵便番号160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会吉田賞選考委員会

## ◎昨年度の土木学会賞受賞者（敬称略）

功績賞：久保田 豊 土木工学ならびに土木事業の進展

岡部三郎

技術賞：東京電力（株） 梓川筋の大容量揚水発電所建設

論文賞：後藤尚男  
亀田弘行 地震時における最大地動の確率論的研究

市原薰 路面のすべり抵抗に関する研究

論文奨励賞：吉田 裕 任意形状の平板曲げの数値解析法

木村 孟 二層地盤の力学性状に関する解析的研究

吉田賞：西林新蔵 人工軽量骨材コンクリートに関する研究（総合題目）

田中賞：伊藤文人 実働荷重による鉄道橋の疲労被害推定

後藤茂夫 有限変形法による吊橋の解法  
有限変形法に関する2,3の考察

オークランドハーバー橋（拡幅部）

首都高速両国大橋

阪神高速大和川大橋

## 第5回土木計画学シンポジウム

◀ 1月 29日(金) ▶

今回のシンポジウムは、土木計画学の体系化への一環として、前回の現象システム研究に対し、評価システムを主題とします。今回のすすめ方は、川崎市上水道、苦小牧港、中央道、相模川、新都市などの完成しているものに対し、土木事業の計画から運用に至るまでの1ラウンドを具体的に討論し、その中から評価システムを解明してゆこうとするものである。

前回同様、討議に十分時間をかけ、討議の内容もプロシーディングスに収録しますので、各位ふるってご参加下さい。

土木計画学研究委員会

1. 期 日：1971年1月29日(金)
2. 時 間：9:30～17:00
3. 会 場：土木学会土木図書館講堂(東京都新宿区四谷1丁目無番地／国電・地下鉄四ツ谷駅駅外濠公園内／電話 03-351-5130番)
4. 主 題：土木計画の評価システム
5. 申込方法：参加希望者は、官製葉書に、①氏名、②所属官職名、③連絡先、郵便番号、住所、所属、電話、④会員区分、⑤連絡事項、を記入のうえ、1970年12月末日までに下記あて申込んで下さい。参加票をお届けします。  
〒160／東京都新宿区四谷1丁目無番地 土木学会事務局編集課
6. 参 加 費：会費 1500円、会員外 2000円  
ただし、前刷代およびおって発刊される“第5回土木計画学シンポジウム”プロシーディングスの図書代を含みます。参加費はシンポジウム当日、必要事項記入済の参加票と同時に受け付けて徴収します。
7. 定 員：一般 80名
8. 備 考：不明な点は電話でお問合せ下さい。

---

## 第7回衛生工学研究討論会

◀ 1月 30日(土)～31日(日) ▶

土木学会衛生工学委員会は、下記により研究討論会を実施しますので、多数ご参加下さいますようご案内いたします。

記

1. 主 催：土木学会衛生工学委員会
2. 期 日：1971年1月30日(土)、31日(日)の2日間
3. 場 所：九州大学工学部(福岡市)
4. 論文内容：本年度は特別に課題を決めず自由課題とします。
5. 申込先：土木学会衛生工学委員会(東京都新宿区四谷1丁目)
6. 採否：論文の採否は衛生工学委員会にご一任下さい。
7. 懇親会：第1日目(30日)終了後懇親会を予定しております。

---

日本道路公団編・土木学会発行

## 東名高速道路建設誌

新刊発売中・カタログ申込次第送呈・限定出版

B 5・1024・口絵写真(カラー含む)  
48ページ・折込付図2枚 11500円／会員特価 9500円(￥300)

## 第14回水理講演会

◀ 2月12日(金)~13日(土) ▶

標記講演会を下記により開催いたしますので多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 期 日: 1971年2月12日(金)~13日(土)
2. 会 場: 発明会館(東京都港区芝西久保明舟町17, 地下鉄虎の門下車徒歩3分)
3. 主 催: 土木学会水理委員会
4. 参 加 費: 聽講無料
5. 講 演 集: 当日会場にて実費頒布
6. プログラム

第1日: 2月12日(金)		
10.00~10.10	開会挨拶	水理委員会委員長 林 泰造
10.10~10.30 (1)	粘土粒子を含む流体の粘度とせん断降伏値	大阪府立工業高等専門学校 大同淳之
10.30~10.40	討議(1)	
10.40~11.00 (2)	開水路・河川における流砂量について	九州大学 横東一郎・○渡辺訓甫・平野宗夫
11.00~11.20 (3)	流砂量および限界移動	武藏工業大学 王方一
11.20~11.40 (4)	流砂量および河床変動の実用的計算方法に関する一試案	電力中央研究所 ○浅田宏・石川晴雄
11.40~12.10	討議(2)~(4)	
12.10~13.10	昼食・休憩	
13.10~13.30 (5)	混合粒径河床の土砂移動(ラ疊混合の場合)	建設省土木研究所 土屋昭彦・○山本晃一
13.30~13.50 (6)	混合砂礫の河床移動-armouring 効果について	京大防災研究所 芦田和男・○道上正規
13.50~14.10 (7)	Armor Coat の生成に関する研究	岐阜大学 河村三郎
14.10~14.40	討議(5)~(7)	
14.40~14.50	休憩	
14.50~15.10 (8)	拡幅とともに流路の変動	九州大学 横東一郎・○平野宗夫・田中耕一
15.10~15.30 (9)	冲積実験水路の抵抗法則について	徳島大学 ○杉尾捨三郎・築田哲男
15.30~15.50 (10)	河川における縦渦列の発生について	中央大学 林泰造
15.50~16.20	討議(8)~(10)	
第2日: 2月13日(土)		
10.00~10.20 (11)	C.M.W. 展開(法)による非線型流出の解析	東京工業大学 吉川秀夫・日野幹雄・○鈴木徹
10.20~10.40 (12)	降雨流出系のシステム関数の解析について	北海道大学 藤田睦博
10.40~11.00 (13)	洪水予測における同定問題と適応制御について	東京工業大学 日野幹雄
11.00~11.20 (14)	確率モデルによる浸透層内の流れの解析	京都大学 岩佐義朗・○武内等
11.20~12.00	討議(11)~(14)	

## 河川災害に関するシンポジウム

◀ 2月13日(土) 13.00~ ▶

第15回水理講演会終了後、水理委員会後援のもとに標記シンポジウムを開催しますので、多数ご参加下さるようご案内いたします。

1. 日 時: 1971年2月13日(土) 13.00~17.00
2. 会 場: 発明会館
3. プログラム:

### (1) 海外における災害報告

- 東南アジアの洪水災害
- ドナヴ河の洪水災害
- 東パキスタンの高潮災害
- カンボジアの河川災害

関東学院大学教授 安芸皎一  
京都大学教授 赤井浩一  
未定  
未定

### (2) 国内における災害報告

- 昭和45年千葉県下集中豪雨による河川災害
- 昭和44年北陸豪雨に伴う黒部川の出水特性

東京大学教授 高橋裕  
芝浦工業大学教授 小笠原和夫

## アルミナセメントコンクリートに関するシンポジウム

土木学会コンクリート委員会ではアルミナセメントの使用方法に関する各種試験研究を行なっておりますが、これらの成果を中心に下記シンポジウムを開催する予定ですのであらかじめお知らせいたします。

1. 期 日 : 1971年4,5月頃

2. 場 所 : 東京

なお、詳細については決定次第本欄でお知らせいたします。

## 流体輸送に関するシンポジウム

◀ 1月23日(土) ▶

1. 開催日時 : 1971年1月23日(土) 9.20~17.10

2. 開催場所 : 大阪科学技術センター(大阪市西区駅1丁目 118・TEL 大阪(06) 443-5321)

3. 共 催 : 日本学術会議水力学、水理学研究連絡委員会・土木学会ほか関係学協会

4. プログラム :

9.20~9.30 開会の辞

第1セッション

9.30~10.00 固液混相流の力学と流体輸送  
10.00~10.30 気液混相流の力学と流体輸送  
10.30~10.40 討 議

東京工業大学 吉川秀夫  
神戸大学 赤川浩麿

第2セッション

10.50~11.20 スラリー輸送用パイプライン  
11.20~11.50 スラリー輸送管の摩耗について  
11.50~12.00 討 議  
12.00~13.30 会食・休憩

新日本製鐵 黒田太郎  
住友金属 三好栄次・久光脩文

第3セッション

13.30~14.00 流体輸送とパイプの品質  
14.00~14.30 天然ガスのパイプラインによる長距離輸送  
14.30~15.00 用水の流送時間について  
15.00~15.10 討 議

日本鋼管 成田國郎  
新日本製鐵 新門屋毅  
京都大学 南

第4セッション

15.20~15.50 パイプライン計画・設計の実際教育  
15.50~16.20 水力学・水理学研究の動向  
16.20~16.50 混相流研究所とその構想  
16.50~17.00 討 議  
17.00~17.10 閉会の辞

住友金属 萩米地正泰  
中央大学 林植時  
大阪電通大 植松俊雄

## 橋梁の動的応答研修会

◀ 2月2日(火)~6日(土) ▶

主 催 : 日本鋼構造協会、後 援 : 土木学会

1. 日 時 : 1971年2月2日(火)~6日(土)

2. 会 場 : 鈴鹿サーキットホテル(三重県鈴鹿市稻生町・電 05938-8-1111)

3. 受講対象者および定員 : 大学卒で数年の経験を有する者 50名

4. 受 講 料 : 一般 45000円、会員・官公庁・学校職員 30000円

ほかに一般・会員ともに寄宿料 17500円(5泊16食)

5. プログラム :

2月2日(火) 9.00~10.00 開講挨拶  
10.00~12.00 }  
13.00~14.00 } コンピューターと数値解析

京都大学 小西一郎  
京都大学 山田善一

14.00~17.30 不規則振動論

東京大学 伯野元彦

17.30~21.00 懇談会(山田善一・伯野元彦・大地羊三)

東京大学 彦野元彦

2月3日(水) 9.00~12.00 骨組構造物の振動解析

法政大学 大地羊三

13.00~16.00 動的解析解析と有限要素法

東京大学 川井忠彦

16.00~17.30 映 画

17.30~21.00 懇談会(川井忠彦・金井清)

# 会 告

2月4日(木) 9.00~12.00	地盤と地震応答	日本大学	金井	清
13.00~17.30	見学会または自由時間			
17.30~21.00	懇談会(後藤尚男・田村浩一)			
2月5日(金) 9.00~12.00	橋梁基礎の地震応答と耐震設計	京都大学	後藤	尚浩
13.00~15.30	わが国の耐風設計規定	国鉄	田村	尚人
15.30~17.30	耐風安定風洞実験	京都大学	白石	成
17.30~21.00	懇談会(白石成人・大久保忠良・伊藤学)	京都大学	白石	成
2月6日(土) 9.00~10.30	耐風安定風洞実験	京都大学	白石	成
10.30~12.00	本州四国連絡橋耐風設計指針	建設省	大久保	忠良
13.00~14.00		東京大学	伊藤	学
14.00~17.30	走行車両による橋梁の動的応答			

6. 申込先: 日本鋼構造協会(〒100 東京都千代田区丸ノ内3-3-1・新東京ビル848/電 03-212-0875)

## 第17回風に関するシンポジウム(共催)

標記シンポジウムを下記により開催いたしますからふるってご参加下さい。

1. 期日: 1970年12月10日(木) 9.30~17.20

2. 会場: 気象庁講堂(東京都千代田区大手町1の7 電話(212)8341(代表))  
地下鉄竹橋(東西線)/大手町(丸ノ内線)下車

3. 共催学会: 地震学会、土木学会、日本海洋学会、日本気象学会、日本建築学会(幹事会)、日本航空宇宙学会、日本地理学会、日本農業気象学会、日本林学会

4. 会費: 聴講無料

5. プログラム:

9.30~9.48 (1)	1970年9月15日彦根付近を襲った強風とそれによる被害について	京大防災研	吉川祐三
9.48~10.06 (2)	木造家屋の強風による被害について	京大防災研	室田達郎
10.06~10.24 (3)	空気膜構造物の設計用風圧力に関する基礎的実験	日大生産	亀井勇・日大理 田治見宏・日大生産 ○広部正久
10.24~10.42 (4)	超高層建築物の周辺流の研究	日大生産	亀井勇・○丸田栄藏
10.42~11.00 (5)	風の垂直分布を考慮せる建物風圧分布の研究	日大生産	○亀井勇・東北大理 本郷剛
11.00~11.10	休憩		
11.10~11.28 (6)	一列にならんだ円柱の風力係数	東大宇航研	佐藤浩・井内松三郎・千代田化工 山本鎮男・○鈴木延明
11.28~11.46 (7)	一列にならんだ円柱のまわりの流れ	東大宇航研	○佐藤浩・井内松三郎・渡部勲・千代田化工 山本鎮男・鈴木延明 東工大工 ○日野幹雄・東工大院 金子大二郎
11.46~12.04 (8)	振動平板よりの渦のロッキング現象		
12.04~13.00	昼食		
13.00~13.18 (9)	山越気流の数値実験(II)	気象研	古川武彦
13.18~13.36 (10)	成層風洞内の山岳波形	気象研	○相馬清二・江口博
13.36~13.54 (11)	アナログデータ処理装置による風向移動の標準偏差の実時間測定について	京大理	花房竜男・○藤谷徳之助
13.54~14.12 (12)	動搖する船舶上の風速変動の測定について	京大理	米谷俊彦
14.12~14.30 (13)	海面上の亂れを船上で測ること	東大洋研	○竹田厚・平啓介・石川浩治・三沢信彦
14.30~14.48 (14)	Reynold's stress を直接測定する場合の誤差	東大洋研	竹田厚
14.48~15.06 (15)	弱風時の風速の統計的分布について	京大防災研	米田寧
15.06~15.16	休憩		
15.16~15.34 (16)	台風の頻度について	京大防災研	石崎滉雄
15.34~15.52 (17)	強風下のエキスポタワー	早大理工	○松井源治・芝工大 永井亮一・早大院 田村幸雄
15.52~16.10 (18)	弱風、風速の記録から求めるトレーサーの拡散状態	お茶女子大	坂上治郎・○鈴木美佐子
16.10~16.28 (19)	拡散の野外実験とその応用	公害資源研	○林正康・横山長之
16.28~16.46 (20)	接地層における風速、温度、湿度のプロファイルならびに $L_1 v_{*1} T_* g_*$ の式推定	気象研	○根本茂・当舎万寿夫・高層気象台 伊藤昭三 京大防災研 畑寧
16.46~17.20	(特別講演) 風の測定		

### ◎懇親会

日 時: 1970年12月10日(木) 17.30~19.00

会場: 気象庁1階食堂

会費: 500円

定員: 30名

申込方法: 出席ご希望の方は当日会場受付へお申込み下さい。

北海道支部行事案内 (郵便番号 060 札幌市南1西2・勧銀ビル5階)  
電話 0122-251-7038

工程管理講習会

◀ 1月28日(木)~1月29日(金) ▶

1. 日 時: 1971年1月28日(木)~1月29日(金) 2日間 (9.00~16.00)

2. 場 所: 建設会館(札幌市北4, 西3) 9階大会議室

3. 参 加 料: 会員 1600円 一般 2200円 (テキストのみ1冊 600円)  
(テキスト代を含む)

4. 講演時間割

(第1日)	9.00~9.30	PERT 概論 (PERT の誕生・PERTによる工程管理)
	9.30~11.30	矢線図作成 (基本的ルール・その他)
	11.30~12.00	所要時間決定 (各作業の所要時間決定)
	13.00~15.00	時間計算 (結合点時刻及び作業時刻)
	15.00~16.00	余裕時間 (全余裕と自由余裕ワリティカルバス)
(第2日)	9.00~10.30	日程短縮 (指定工期におさまる工程)
	10.30~12.00	フォローアップ, その他
	13.00~15.00	MANPOWER スケジュール (山積み・山崩し)
	15.00~16.00	PERT/COST, CPM (その他電算機による計算)

5. 申込み: 氏名・所属・所在・会員区分を明記のうえ、参加料を添えて(前納)支部事務局へお申込みのこと。盛会予想につき早目にお申込みのこと。

6. 申込締切: 定員: 1971年1月20日, 定員 150名, 先着順締切, 当日受付けは、原則として認めません。

7. 講 師: (株)大林組土木本部工務部 大河内照雄

同 機械計算部開発課 太田 順

同 札幌支店土木部 荒木誠四郎

東北支部行事案内 (郵便番号 980 仙台市二日町 18-25・丸七ビル)  
電話 0222-22-8509

(1) 技術研究発表会論文・報文募集

表記の原稿をつぎの要領で募集します。

1. 発表: 1971年2月23日(火)仙台市宮城県民会館で口頭発表のほか“技術研究発表会講演概要”として印刷刊行配布する。
2. 内容: 土木工学、土木技術、工事報告など。
3. 応募方法: 支部事務局へ文書または口頭で申込みのこと。申込みにより所定の原稿用紙と起稿要領などを急送する。
4. 応募資格: 東北支部所属の会員を原則とする。
5. 申込締切: 1970年12月15日(期限後到着のものは受理いたしませんのでご注意下さい。)
6. 原稿締切: 1971年1月20日必着のこと。

関東支部行事案内 (郵便番号 160 東京都新宿区四谷1丁目  
土木学会総務課内 351-4133)

講演と見学会—成田国際空港—

◀ 2月5日(金) ▶

1. 行 程:

- 9.30 京成電鉄 成田駅前集合
- 10.00~12.00 空港内事務所にて講演—「国際空港情勢と成田空港について」
- 12.00~13.00 昼食
- 13.00~14.30 成田空港建設状況見学
- 14.50~15.50 成田山新勝寺見学
- 16.00 京成電鉄 成田駅前解散

2. 会費: 800円(バス代、昼食代)

3. 定員: 50名

4. 申込方法: 参加希望者は1月25日(月)までに、氏名、勤務先、連絡先を明記し、会費を添えてお申し込み下さい。

## 中部支部行事案内

(郵便番号 460 名古屋市中区三の丸3丁目1番1号  
名古屋市土木局道路部建設課内  
電話 052-961-1111 内線 2464)

◀ 2月13日(土) ▶

## 昭和45年度研究発表会

1. 日 時: 1971年2月13日(土) 8:55~17:05
2. 場 所: 名古屋大学工学部土木工学科教室(名古屋市千種区不老町)
3. 講演題目および発表者:

## 第1会場

8:55~9:00	開会あいさつ	名大 菊地洋一・○山田健太郎・安田敏雄・神谷周浩
9:00~9:15 I-1	圧延H形鋼の加工法による残留応力について	名工大 桜井孝昌
9:15~9:30 I-2	斜交パイプ構造橋手近傍における応力解析	名大 福本勝士・○三好弘高
9:30~9:45 I-3	タワーの荷重変形特性	名工大 松浦聖・○森賢治
9:45~10:00 I-4	テーパーのついているアーチの塑性崩壊荷重の算定	信州大 吉田俊弥・○草間孝志・野村文生
10:00~10:15 I-5	繰返し荷重をうける部材の非弾性挙動(軸力と曲げモーメントが共存する場合)	名大 福本勝士・○久保全弘
10:15~10:30 I-6	横倒れ座屈と構構の剛度について	滝上工業 林輝雄・島津卓郎・○安藤浩吉
10:30~10:35 休憩		名工大 長谷部宣男
10:35~10:50 I-7	水平地震荷重を受ける曲線けた構の一設計計算法	5港建 横井聰之
10:50~11:05 I-8	三角形突起を有する半無限板の応力解析	名工大 岡林稔・長谷部宣男・○横田宏昌
11:05~11:20 I-9	衣浦連絡道沈埋トンネルの耐振性について	金沢大 小堀為雄・○松崎明
11:20~11:35 I-10	Y字型板の応力解析(曲げ、ねじり荷重)	金沢大 小堀為雄
11:35~11:50 I-11	応答スペクトルの確立論の考察	信州大 長尚・○伝田正直・鉄建坂口稔
11:50~12:05 I-12	路面凹凸のSimulationについて	名港管理組合 田村伴次
12:05~13:00 昼食休憩		名大 市原松平・熊谷泰彦
13:00~13:15 I-13	飽和砂の非排水んせ断特性	金沢大 小野一良・○渡辺利雄・平木喜一郎・田島和之
13:15~13:30 I-14	密な裏込め砂の振動土圧	名大 市原松平・石橋勲・○森信夫
13:30~13:45 I-15	円柱面状熱源応力よりくい周地盤応力の一計算	信州大 長尚・○伝田正直・鉄建坂口稔
13:45~14:00 I-16	杭基礎ラーメンにおける抗長の影響について	名城大 柴田道生
14:00~14:15 I-17	弾性地盤法を応用した矢板式けい船岸の設計	名港管理組合 田村伴次
14:15~14:30 I-18	土留め壁背後の土圧分布と切り荷重	名大 市原松平・熊谷泰彦
14:30~14:45 I-19	地震時に井筒に作用する土圧および振動に関する実験	金沢大 小野一良・○渡辺利雄・平木喜一郎・田島和之
14:45~15:00 I-20	偏心傾斜荷重が帶状基礎の支持力係数Nrにおよぼす影響	名大 市原松平・石橋勲・○森信夫
15:00~15:05 休憩		
15:05~15:20 I-21	粘土斜面の安定に及ぼす小段の影響について	金沢大 ○松井晴生・西田義親・若松精次・長原久克
15:20~15:35 I-22	フィルダムコア部の水平・垂直方向の透水性	愛工大 大根義男・日本土質開発研 森田正詔・○磯貝洋尚
15:35~15:50 I-23	フィルダムの斜面侵食に関する研究	愛工大 大根義男・西堀高弘・○木村勝行
15:50~16:05 I-24	アスファルト舗装ダムのマスチックコートに関する実験	愛工大 大根義男・○西堀高弘・木村勝行
16:05~16:20 I-25	埋設網による地盤強化法	信州大 川上浩
16:20~16:35 I-26	大口径くい打込み時の地盤振動	鹿島建設 ○丸山善彦・東海カッターカー業 玉置英裕・名城大 堀内孝英
16:35~16:50 I-27	伊坂ダムの間ゲキ水圧、土圧の観測結果	愛工大 ○大根義男・三重県企業庁 岡田昇・大西秀夫・水谷貞夫
16:50~17:05 I-28	土圧、間げき水圧の計測における2~3の計器の問題点	名大 市原松平・松沢宏・○石井恒久

## 第2会場

9:00~9:15 II-1	統一土質分類に関する検討	名大 植下協・○野々垣一正・浅井武彦
9:15~9:30 II-2	マーシャル安定度におよぼす因子の影響について	岐大工業短期大学部 水谷良喜・○森本博昭
9:30~9:45 II-3	黒ボク地帯の凍上防止に関する実験	愛工大 大根義男・○安井利雄・榎本博
9:45~10:00 II-4	塩分添加による粘土の強度特性について	名城大 柴田道生・○前田都喜春
10:00~10:15 II-5	平面ひずみ状態における粘土の動的強度	名大 市原松平・○松沢宏
10:15~10:30 II-6	相良層泥岩の諸特徴について	中電 渡辺一郎・杉本忠男・○奥田宏明
10:30~10:35 休憩		
10:35~10:50 II-7	セメントを用いたモルタルの諸性質について	金沢大 柳場重正・川村満紀・○大深伸尚
10:50~11:05 II-8	山崩れ防止用エヤモルタルについて	岐大 ○大浜文彦・中村重之
11:05~11:20 II-9	コンクリート混和材としての粘土の利用について	愛工大 久保直志・○森野豊二
11:20~11:35 II-10	高強度耐摩耗コンクリートに関する研究	中電 長谷川幸雄・青野正志・○中島保夫
11:35~11:50 II-11	CSAセメントを使用したコンクリートの基礎的力学・性状について	岐大 大浜文彦・○久野公徳
11:50~12:05 II-12	4週材令における軽量骨材コンクリートの圧縮疲労について	中部工大 桑山八洲彦
12:05~13:00 昼食休憩		
13:00~13:15 II-13	軽量コンクリートのヤング係数におよぼす骨材の影響について	名工大 吉田弘智・○七沢和男
13:15~13:30 II-14	横打供試体の圧縮強度	長野工專 山崎英樹・○上条直秀
13:30~13:45 II-15	コンクリートの力学的挙動に関する基礎的研究	岐大 前島正彦
13:45~14:00 II-16	軽量コンクリート連続合成はりの力学的挙動に関する実験的研究	岐大 小林和夫・○中村重之
14:00~14:15 II-17	水運用を主体とした岩屋ダム運用計画について	中電 阪西信太郎
14:15~14:30 II-18	矢作第2ダム洪水吐水理実験について	中電 大野定利・○広田敏
14:30~14:45 II-19	現地揚水試験に関する一考察	岐大 宇野尚雄
14:45~15:00 II-20	プロペラ式流速計による乱れ測定法について	信州大 余越正一郎

15.00~15.05	休憩		
15.05~15.20	II-21 水路合流点における水路床変動	岐大 河村三郎・○小沢功一	
15.20~15.35	II-22 小河川の段落ち部における横配合	信州大 余越正一郎・○佐々木謙	
15.35~15.50	II-23 長期間流出系の統計的性質について	名大 ○太田静男・高木不折	
15.50~16.05	II-24 女鳥羽川の河状特性とその破堤史	信州大 佐々木八郎・○古畑庸博	
16.05~16.20	II-25 アメリカ合衆国イリノイ州河川における洪水発生の特性について	金沢大 高瀬信忠・○鈴木秀利	
16.20~16.35	II-26 信濃川および利根川の流量変動の相関特性	信州大 ○佐々木八郎・余越正一郎・佐々木謙	
16.35~16.50	II-27 手取川および黒部川における融雪出水に関する研究	金沢大 高瀬信忠・○野村惣男	
16.50~17.05	II-28 雨域の移動による流出状態の変化について(昭和45年飛騨川洪水を対象として)	名大 西畠勇夫・○磯貝正徳	

## 第3会場

9.00~ 9.15	III-1 港内波浪の予知について	名大 足立昭平・○西塚源司	
9.15~ 9.30	III-2 強い二次波峯現象における波数周波数スペクトルの解析	名工大 石田 明	
9.30~ 9.45	III-3 実験計画法による海岸変形の研究—要因効果について-	名城大 伊藤 正博	
9.45~10.00	III-4 風波スペクトルに及ぼす反射の影響に関する実験的研究	名工大 石田 明・○伊藤親直	
10.00~10.15	III-5 浅海領域における周波の特性に関する実験的研究	名工大 石田 明・○副田悦生	
10.15~10.30	III-6 異型塊透過による波圧減少実験報告	岐阜高専 菅野 一	
10.30~10.35	休憩		
10.35~10.50	III-7 波力による円筒の挙動に関する研究	岐大 増田重臣・○安田孝志	
10.50~11.05	III-8 波の打ち上げ高の算定式における非線形特性の考察	中部工大 高田 彰	
11.05~11.20	III-9 放射性廃棄物深海投棄処分の影響評価方法に関する一考察	金沢大 寺島 泰	
11.20~11.35	III-10 水処理操作過程におけるカドミウムの挙動について	金沢大 寺島 泰・○塚本勝典	
11.35~11.50	III-11 複雑地形のトラバース測量における測角の単純誤差について	名城大 加藤正育・○柳田祐次	
11.50~12.05	III-12 大都市における第2次産業の空間的分布について	金沢大 ○木本伸一・松浦義満	
12.05~13.00	昼食休憩		
13.00~13.15	III-13 巨視的な人口集中度の定義に関する検討	名大 ○渡辺千賀恵・毛利正光	
13.15~13.30	III-14 土地条件が地価に及ぼす影響について	金沢大 ○白木哲郎・松浦義満	
13.30~13.45	III-15 土地利用率決定モデルに関する一考察	名大 ○森利夫・河上省吾	
13.45~14.00	III-16 居住地選定動機調査について	金沢大 松浦 義満	
14.00~14.15	III-17 流通業務放散の規模と配置の決定に関する一考察	名城大 水野 弘	
14.15~14.30	III-18 O-D 分布に関する確率的考察	名工大 松井 寛	
14.30~14.45	III-19 有料路外駐車場容量についての一考察	名大 ○増田豊行・岩本基広	
14.45~15.00	III-20 交通量配分における分割計算法の意義について	金沢大 飯田 敏	
15.00~15.05	休憩		
15.05~15.20	III-21 需要曲線による交通配分解析	岐大 加藤 晃・○鈴木 清	
15.20~15.35	III-22 交通流の車群特性に関する一考察	名工大 渡辺新三・○小野 弘・沢 彰男	
15.35~15.50	III-23 貨物輸送の model split について	岐大 加藤 晃・○岡 昭二	
15.50~16.05	III-24 伊良湖水道航行船舶数の将来予測	5港建 植原 英郎	
16.05~16.20	III-25 江南市内における自転車交通の実態と路上走行テストについて	名城大 水野 弘・○高橋改穀	
16.20~16.35	III-26 市街部における交通騒音について	名大 ○青島綱次郎・古市正敏・毛利正光	
16.35~16.50	III-27 交通事故のマクロ的解析	名大 ○所 浩司・三星昭宏・毛利正光	
16.50~17.05	III-28 線型判別関数による交通事故解析(その2)	名大 ○三星昭宏・所 浩司・毛利正光	

## 4. 聴講:無料

5. 申込方法:聴講希望者は 1月30日(土)までに勤務先、連絡先、氏名を明記の上、土木学会中部支部へお申し込み下さい。

## テキスト頒布について

橋りょう工学講座 53 ページ 頒価 200 円(送料無料)

8月21日開催いたしました技術講座の時に使用いたしましたテキストがありますので希望の方は上記金額を添えて中部支部へお申し込み下さい。

関西支部行事案内(郵便番号 541 大阪市東区船場中央 2-2・船場センタービル4号館409号)  
電話 06-271-6686 振替口座大阪 82599 番

## (1) 中堅土木技術者を対象とする懇話会(第1回)

&lt; 1月26日(火) &gt;

## 長スパン橋梁建設に関する懇話会

(第1回) 下部工設計上の問題について

1. 日 時: 1971年1月26日(火) 13.00~16.00

2. 場 所: 大阪科学技術センター8階小ホール 電話 大阪(06)443-5321番

大阪市西区靭1丁目 118 (地下鉄四ツ橋線本町下車北へ 150m 靭公園北東角)

3. 問題点提起者および司会:

# 会 告

開会挨拶

問題点提起者

司 会

閉会挨拶

土木学会関西支部長

福山真三郎

松村駿一郎

江見晋

京都大学教授工学部 工博

山田善一

阪神高速道路公団南港連絡橋建設部調査役

松本忠夫

土木学会関西支部幹事長

岡田清

4. 定員：100名

5. 参加費：無料、参加歓迎

6. 懇親パーティ：懇話会終了後懇親パーティを開催します（8階ロビー、開会16時よりの予定）。

参加費：無料、定員：30名

7. 申込方法：懇話会のみ参加希望者は参加予定人員をハガキまたは電話にて、懇親パーティ参加希望者は勤務先、連絡先および氏名を明記（様式随意）し、1月14日（木）までに土木学会関西支部へお申し込み下さい（パーティ参加証をお送りします）。

## （2）講習会「コンクリート工学の進歩と最近の規格」

◀ 1月27日（水）▶

共催：土木学会関西支部・日本材料学会・同関西支部

協賛：コンクリート研究会

近時、建設工事の多様化、急速化などの観点から、レディミクストコンクリートのJIS規格全面改正をはじめとし、軽量骨材、プレキャスト製品、PC鋼材など、の諸規格も、新制定あるいは時代に則した大改正がなされつつあります。JIS原案も含めて、これらの新規格を集約した格好の便覧が改定出版されましたので、この機会に、新しい規格の内容とその裏付けとなっている事柄の解説を願うことに致しました。ふるってご参加下さい。

1. 日 時：1971年1月27日（水）9:00～17:00

2. 場 所：大阪科学技術センター8階大ホール 電話 大阪（06）443-5321

大阪市西区靱1丁目118番地（地下鉄四ツ橋線本町下車北へ150m 靱公園北東角）

3. 題目と講師：

開会挨拶

9:00～10:00 ① コンクリート材料の発達と規格改正の動向

10:00～11:00 ② セメントおよび混合剤の性質と規格

11:00～12:00 ③ 骨材およびコンクリートの性質と規格

13:00～14:00 ④ 建設工事の近代化に伴う製品規格の新しい傾向

14:00～15:00 ⑤ 一般二次製品の規格と趨勢

15:00～16:00 ⑥ 速心力成型製品の規格と趨勢

16:00～17:00 ⑦ プレスレストコンクリート製品の規格と趨勢

閉会挨拶

土木学会関西支部長 福山真三郎

京都大学工学部教授 工博 岡田清治

京都大学工学部助教授 工修 小柳治

大阪工業大学助教授 児玉武三

通商産業省工業技術院 (未定)

旭コンクリート工業（株） 伊藤晃一

立命館大学理工学部教授 工博 明石外世樹

建設省土木研究所システム課建設専門官 岩松幸雄

日本材料学会関西支部長 吉沢四郎

4. 定員：300名（先着順）

5. 参加費：共催・協賛学協会会員 3000円（テキスト：日本材料学会編、日本工業規格便覧“セメントコンクリート”定期3000円1冊を含む）ただし講習会当日は3500円となりますので期限内に前納して下さい。

非会員 3500円

6. 申込期限：1971年1月11日（月）

7. 申込方法：参加希望者は勤務先、連絡先、氏名および会員の種別（所属学協会名）を明記（様式随意）し、上記参加費を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

参加者には参加証をお送りしますから当日は必ずご持参下さい。参加証のない人は入場をお断りします。

（注）都合により、講師の順序に変更があるかもしれませんので、ご了承下さい。

## （3）和歌山県における開発に関する講演会

◀ 1月14日（木）▶

共催：土木学会関西支部・和歌山県建設技術協会・和歌山県土木部

1. 日 時：1971年1月14日（木）13:00～17:00

2. 場 所：和歌山県民文化会館 電話 和歌山（0734）24-1757番

和歌山市小松原通1丁目 県庁正門前

3. 題目と講師：

開会挨拶  
 13.05~14.05 ① 開発理念としての成長と福祉  
 14.10~15.00 ② 紀の川をめぐる諸問題について  
 15.15~16.00 ③ 黒潮国体開催の年を迎えて  
 16.00~17.00 ④ 映画 2題  
 閉会挨拶

土木学会関西支部長 福山真三郎  
 和歌山大学経済学部教授 経済学博士 福吉昇三  
 建設省和歌山工事事務所長 井沢健二  
 和歌山県国体局次長 稲田一郎  
 和歌山県建設技術協会委員長 加藤市朗

4. 定員：200名

5. 聴講：無料、来聴歓迎

### (5) 関西支部年次学術講演会（昭和46年度）

◀ 5月9日(日) ▶

1. 日時：1971年5月9日(日) 9.00~17.00 の予定

2. 場所：京都市

プログラム、講演概要の頒価およびその他の事項については学会誌4月号（一部3月号）に登載の予定です。講演ご希望の方はつぎの講演申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。

#### 年次学術講演会申込要領

- ① 講演申込方法：講演希望者は申込カード（4枚複写綴）に部門および区分、題目、スライドの有無、勤務先、会員種別、学位、氏名（連名の時は講演者に○印をつける）、卒業学校名および年次、連絡先を明記のう2月15日(月)までに土木学会関西支部へ必着するよう提出して下さい。  
 申込カードは関西支部へ請求して下さい。
- ② 講演内容：講演は未発表のもので1人1題にかぎります。
- ③ 講演時間：1題につき10分の予定です。
- ④ 講演部門：つぎの5部門にわけますが都合により講演者の了承を得たうえで部門を変更させていただくことがあります。  
 (お願い) 申込カードの部門欄には部門番号と区分をご記入下さい。

(例；第2部門 衛生工学)

部門	区分	細分
第1部門	土木構造	応用力学・構造力学・構造工学・橋梁一般・鋼橋等
第2部門	水工学・衛生工学	水理学・水文学・発電水力・衛生工学・河川工学・港湾工学・海岸工学等
第3部門	土質工学・岩盤力学	土質工学・基礎工学・岩盤力学等
第4部門	交通工学・都市計画・国土計画	道路工学・鉄道工学・交通計画・都市計画・国土計画・測量等
第5部門	土木材料・施工法	土木材料・土木施工法・コンクリートおよび鉄筋コンクリート工学等

⑤ 原稿提出要領：講演申込者にはつぎの要領で講演概要の原稿を提出していただきます。

- 講演概要是講演者の原稿をそのまま縮写しオフセット印刷としますから必ず所定の用紙をご使用下さい。
- 用紙は執筆要領（原稿の書き方）とともに講演申込者に関西支部からお渡しします。
- 原稿は4月2日(金)(期限厳守)までに関西支部へ必着するようお送り下さい。
- 原稿の長さは1題につき2ページ（図表、写真を含め1ページ1480字詰）を原則とします。超過する場合は2ページまで、1ページにつき1000円の製版料を申し受けます。

⑥ 講演概要：講演者（○印）には無料、一般は有料、別刷は講演者（○印）には30部無料で差し上げますが、それ以外の取扱いはいたしません。

(付) テキスト頒布について

物理探査の土木工事への応用	頒価 1000円	送料 80円
都市廃棄物の処理と処分	" 800円	" 60円
土木工事における土中水の扱い方	" 1500円	" 80円
工程管理（演習問題解答付）	" 1500円	" 100円
工事の安全対策	" 1000円	" 80円
近畿開発と大型土木プロジェクト	" 600円	" 60円
建設工事に伴う騒音、振動の調査報告書（騒音振動委員会編）	頒価 200円	送料 45円
公害振動測定法（案）	" 無料	" 35円

## 会 告

騒音・振動公害	" 1500 円	" 100 円
シールド工法研究会資料（地下鉄シールドの問題点 シールド工事施工上の問題点の 2 点 1 組）	" 150 円	" 55 円
写真測量とその応用	" 1200 円	" 80 円
水理学・水文学における最近の進歩	" 1500 円	" 100 円
プレストレストコンクリート最近の進歩	" 1200 円	" 80 円

上記テキストご希望の方は額面に送料を添えて土木学会関西支部へお申し込み下さい。

### 西部支部行事案内 (郵便番号 810 福岡市薬院 2 丁目 14-21) 電話 (092) 78-3716

#### (1) 昭和 45 年度支部総会

◀ 2 月 21 日 (日) ▶

- 期 日 : 1971 年 2 月 21 日 (日)
- 場 所 : 九州大学工学部防音教室
- 議 題 : ① 昭和 45 年度事業および会計中間報告, ② 来年度事業について, ③ 来年度支部長紹介, その他
- 本掲載をもってご案内といたします。会員諸氏多数ご出席下さい。

#### (2) 昭和 45 年度研究発表会

◀ 2 月 21 日 (日) ▶

- 開催期日 : 1971 年 2 月 21 日 (日) 9.00 から
- 会 場 : 九州大学工学部防音教室
- 発表申込 : 1970 年 12 月 20 日までに勤務先, 会員, 種別, 氏名, 発表題目を支部あてに申込んで下さい。1 人 1 題とします。共同研究の場合, 発表者に○印のこと。発表者は会員であること。
- 発表時間 : 1 題につき 15 分 (質問時間を含みます), スライドは使用できません。
- 原稿提出 :
  - 原稿はオフセット印刷とします。原稿用紙は支部に請求して下さい。
  - 原稿用紙は 1 枚 (1 ページ) 1620 字詰。1 題につき 2 枚とします。超過は 4 枚まで認めますが, 1 枚につき 1000 円を原稿と同時に送付して下さい。
  - 原稿提出 : 1971 年 1 月 25 日までに支部へ。
  - 増刷 20 部さしあげます。それ以上必要な場合は, 原稿送付のとき部数を申出て下さい。実費申受けます。
- 申込先 : 福岡市薬院 2 丁目 14-21 〒 810 土木学会西部支部 (電 78-3716)

### 土木学会出版物のマイクロフィッシュフィルムによる複写と販売について

土木学会では、かねてより学会出版物のマイクロフィルム化につき検討を進めてまいりましたが、このほど一部出版物をフィッシュフィルムに撮影、それを複写フィルムにコピーして希望者に販売することにしました。

マイクロフィッシュとは、土木学会誌 55-2 (昭和 45 年 2 月号) に紹介されているように、ハガキ大のフィルムの中に 60 ページの文献を収録でき、フィルムはマイクロフィルムリーダーによって拡大して読み取るか、必要によっては各ページを 5 秒間位でハードコピーにとることもできファイリングも楽です。それにともなって製本保存の廃止による書庫スペースおよび製本費の節減、パックナンバーの補充、雑誌類の重複購入の防止などの利点があります。その反面、フィルムリーダーなど機器類の購入の必要性、フィルム取扱い上の若干の注意などの問題点もあり、個人のためよりも資料室、図書室など集団的な利用が中心となりましょう。

当面は土木工学科新設校等の希望を入れ、パックナンバーが比較的揃いにくいと思われる学会出版物からフィッシュ化を実施する予定です。検索に多くの利点を持ち、少量部数の出版にはコストの廉価なマイクロフィッシュによる出版を、皆様のご希望等により今後も引き続き企画いたしたいと考えております。情報管理の合理化のため各位のご利用をお待ちいたしております。

#### 記

- 土木学会誌、論文集総索引 (創立 50 周年記念出版)  
合計 252 ページ 5 シート 1,600 円 (送料とも)
- 土木学会論文集 第 1 号 (昭和 19 年) より第 124 号 (昭和 40 年) まで  
合計 8,000 ページ 206 シート 62,100 円 (送料とも)

## 会 告

3. 土木学会誌 大正4年より昭和40年まで 45年12月完成の予定  
合計 約50,000ページ 約1,000シート 300,000円程度の予定

なお、以上に関しては代理店が業務を扱いますので詳細は、土木学会土木図書館(〒160 東京都新宿区四谷1丁目 土木学会内 TEL 351-5138(代表))へお問合せください。

## 日本学術会議会員選挙に関する有権者名簿登録について

1971年11月に日本学術会議第9期会員選挙が行なわれますが、有権者は、日本学術会議事務局に備えた有権者名簿に登録されなければなりませんので下記によって手続をとって下さい。

### 記

#### 1. 登録カードの提出について

(1) 前回(第8期)の選挙の有権者以外の者で有権者名簿に登録を求めるようとする者は、登録用カードを提出して下さい。

(2) 前回(第8期)の選挙の際有権者であった者については選挙管理会に保管してある登録用カードにより資格審査が行なわれました。

この審査で認定された者は、そのまま有権者名簿に登録されますから、あらためて登録用カードを提出する必要はありませんが、提出するよう通知のあった者は、あらためて登録用カードを提出して下さい。

なお、前回の登録における所属以外の部または専門で今回の登録を求めるようする方は「所属部または専門変更届(様式第2)」により、登録用カードを請求して下さい。

(3) 登録用カードは、いつでも提出することができますが、第9期選挙のための登録用カードの受付は昭和46年3月31日(必着)で締め切ります。

#### 2. 登録用カード用紙の請求について

登録用カード用紙は中央選挙管理会に請求すれば無料で送付します(様式第1)。

#### 3. 有権者等の異動届について

有権者は氏名、住所(住居表示の変更を含む)、本籍、勤務機関および職名、勤務地等のいずれかに異動があったとき、または博士の学位を取得した場合には、その都度すみやかに「有権者異動届」(様式第3)を中央選挙管理会に提出して下さい。

なお、不明の点および連絡は日本学術会議中央選挙管理会(〒106 東京都港区六本木7-22-34 電03-403-6291)へ連絡して下さい。

様式第1

#### 登録用カード用紙請求書

(ふりがな)

氏名

住所(郵便番号)

勤務機関および職名(又は自営の職業名)

様式第2

#### 所属部または専門変更届

昭和 年 月 日

日本学術会議中央選挙管理会 御申

(現登録の所属) 第 部 学 地方区  
(ふりがな)

氏名

わたくしは現在の専門を変更いたしたいので登録用カード用紙を請求いたします。

様式第3

#### 有 権 者 異 動 届

昭和 年 月 日

日本学術会議中央選挙管理会 御申

第 部 学 地方区

(ふりがな)

氏名

下記のとおり異動がありましたからお届けします。

事 項	(新)	(旧)
1 氏 名		
2 住 所(郵便番号)		
3 本 籍		
4 勤務機関および職名		
5 勤務地(郵便番号)		
6 博 士 の 学 位	① 学位の種類 ③ 授与年 昭和 年	② 授与大学 ④ 所属学会

(注) 1. 事項1~6のうち該当事項のみ記載すればよい。

2. 新たに博士の学位を取得した者は、学位の種類、授与大学、授与年とともに、からならず所属学会名を記入すること。

備考 様式第1、第2、第3とも、用紙はなるべく半紙半裁大のもの、(B5)または葉書を用いてください。

## 国際会議ニュース

### (1) Schnellbahnbau '71 (高速度鉄道建設 '71)

開催期日：1971年1月27日，28日

開催地：ベルリン

主 催：ベルリン工科大学

テーマ：密集地帯における高速度交通の計画，建設および作業

問合先：Senator für Bau-und Wohnungswesen 1  
Berlin 31  
Württembergische Strasse 6-10

### (2) IABSE Symposium on Mass-Produced Steel Structures (続報)

本年5月号国際会議ニュース欄に公告した標記シンポジウムに論文を提出したい人は本年12月31日までに題目と要旨（タイプ用紙2枚以内）をIABSE本部宛送らなければなりません。については、参加を希望の方は詳細を下記へお問合せ下さい。

東日本：東京大学工学部 伊藤 学 助教授

西日本：大阪大学工学部 前田幸雄 教授

### (3) The Annual Assembly of JIW in Stockholm 1971

期 日：1971年6月6日～6月12日

場 所：ストックホルム

概 要：(1) 執行委員会，理事会，技術委員会

- (2) Goldschmidt-Clermont 賞映画コンクール
- (3) Portevin Lecture "Creative aspects of welded design" by Dr. A. Amirikian
- (4) Public Session "Welding in Shipbuilding"
- (5) Colloquium "Weldability and Welding of Quenched and Tempered Steels"
- (6) 溶接出版物展示会
- (7) その他社交行事，工場見学，旅行

問合先：東京都千代田区神田佐久間町 1-11

溶接学会事務局内 JIW 事務局

(注) 技術委員会は16の Commission よりなっており、出席者の資格、提出論文の検討などは JIW の対応する委員会で行なっている。

土木構造に直接関係のある XV 委員会について

は別記 "JIW-XV 委員会よりのお知らせ" をご参照下さい。

### (4) JIW XV 委員会からのお知らせ

1. 1971年度 JIW XV 委員会への提出論文についての打合せ会を1971年1月11日に開催しますので、同委員会への論文提出を予定される方は同日までに論文を準備願いたく、また、その由を年内に JIW 事務局あてご連絡下さい。

2. JIW XV 委員会の討議資料を1971年度から JIW XV 委員会の委員に復写配布（有償）することとなりました。委員以外の方々も実費（送料ともで1年3000～5000円の見込）でお預けしますので、ご希望の方は事務局あてお申込み下さい。

JIW 事務局

東京都千代田区神田佐久間町 1-11

溶接学会事務局内

電話 03-253-0488

（担当：堀田氏）

### (5) International Symposium on Experimental Analysis of Instability Problems on Reduced and Full-Scale Models

期 日：1971年9月18日～15日

開催地：アルゼンチンのブエノスアイレス

テーマ：1. Buckling of plane or prismatic structures  
2. Buckling of plate and shells-buckling of space trusses  
3. Non-classical problems of instability of equilibrium : creep buckling-dynamic buckling in connection with thermal problems-post buckling behaviour, etc.

会議用語：仏語、英語、スペイン語

論 文：論文を申込まれた方は（4000語以内、英語または仏語）3部—1971年3月1日まで

最終参加申込期日：1971年4月30日

参加費：RILEM 会員 U.S. \$30.00

会員外 U.S. \$50.00

申込先：The Secretariate

RILEM International Symposium 1971

Instituto Nacional de Technologia Industrial

Libertad 1235-3 er, Piso

Buenos Aires, Argentina

お願い：本欄は土木に關係の深い国際会議をより多く紹介し、多くの会員が関連分野の国際会議に論文提出または参加できる機会をもつことができるように設けたものです。会員各位に個人的に連絡のあった案内等でも結構ですから国際会議の情報がありましたら下記より海外活動委員会までご連絡下さい。

1. 会議名／2. 開催期日／3. 開催地／4. テーマ／5. 論文提出方法／6. 締切／7. 提出先／8. 連絡先